HONDA
汎用製品

耕うん機

FG400•FG500•FG400H•FG500H

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・ 4
安全ラベル・・・・・

運転操作のしかた・・33
変速・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。

警告

・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

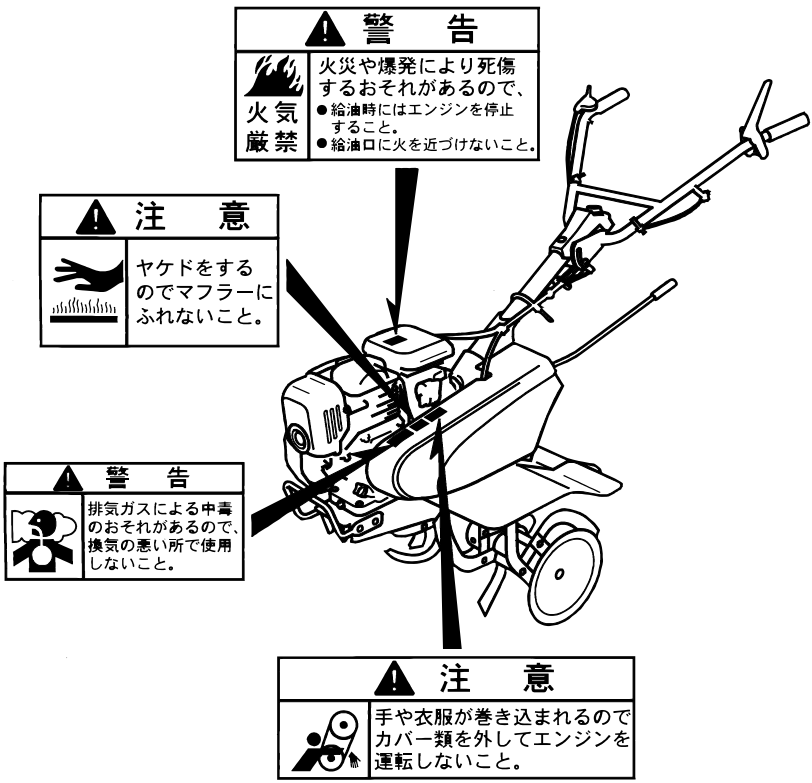
警告

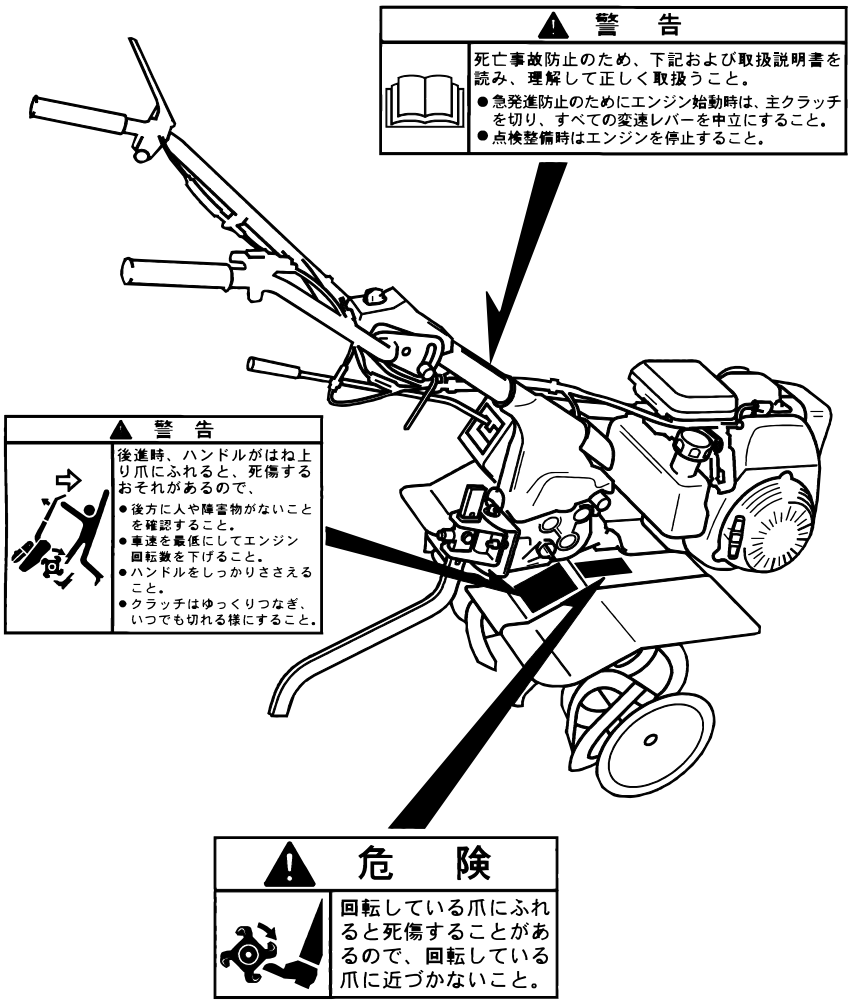
●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・必ず 2 人以上で持って、車の荷台に載せてください。
  - ・エンジンは必ず停止してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




警　告
死亡事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
● 急発進防止のためにエンジン始動時は、主クラッチを切り、すべての変速レバーを中立にすること。
● 点検整備時はエンジンを停止すること。
警　告
後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると、死傷するおそれがあるので、
● 後方に人や障害物がないことを確認すること。
● 車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。
● ハンドルをしっかりささえること。
● クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にすること。
危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。また、ご相談窓口として「Honda汎用営業所･S店住所一覧」を別紙で同梱しておりますのでご利用ください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示位置は13頁をご覧ください。
（参考:左の銘板はFG400-J2タイプの物です）

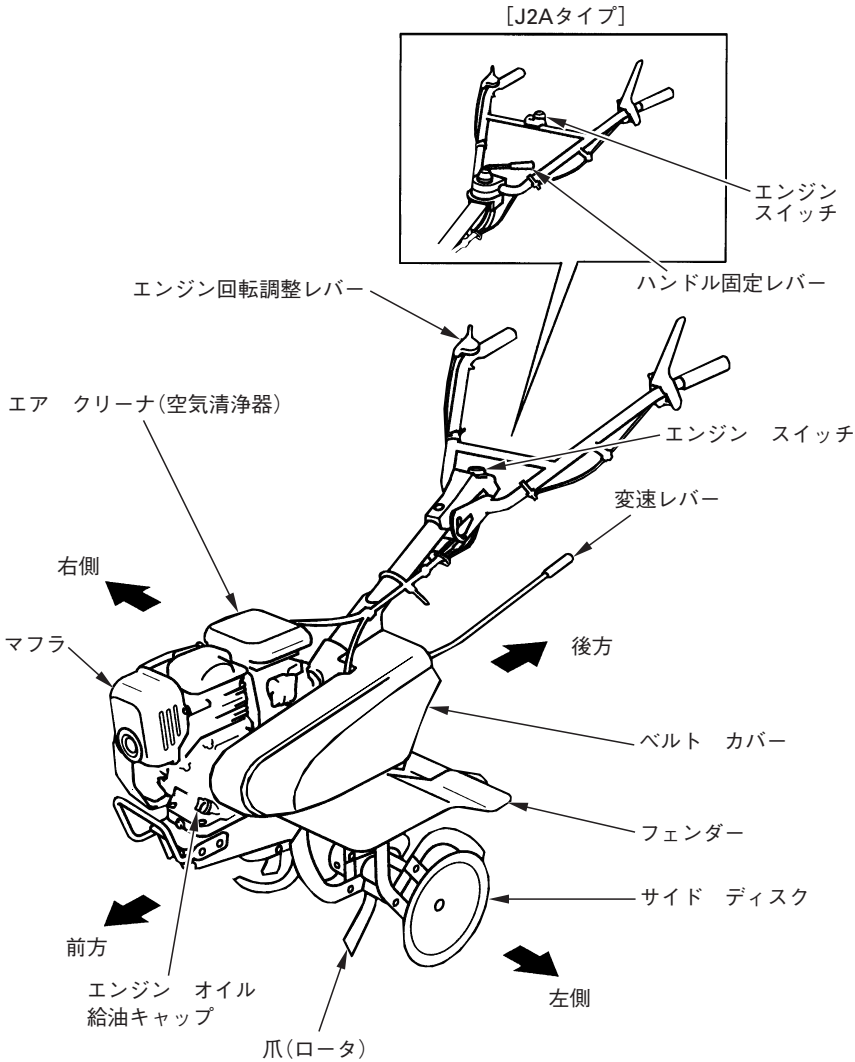
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

認定番号

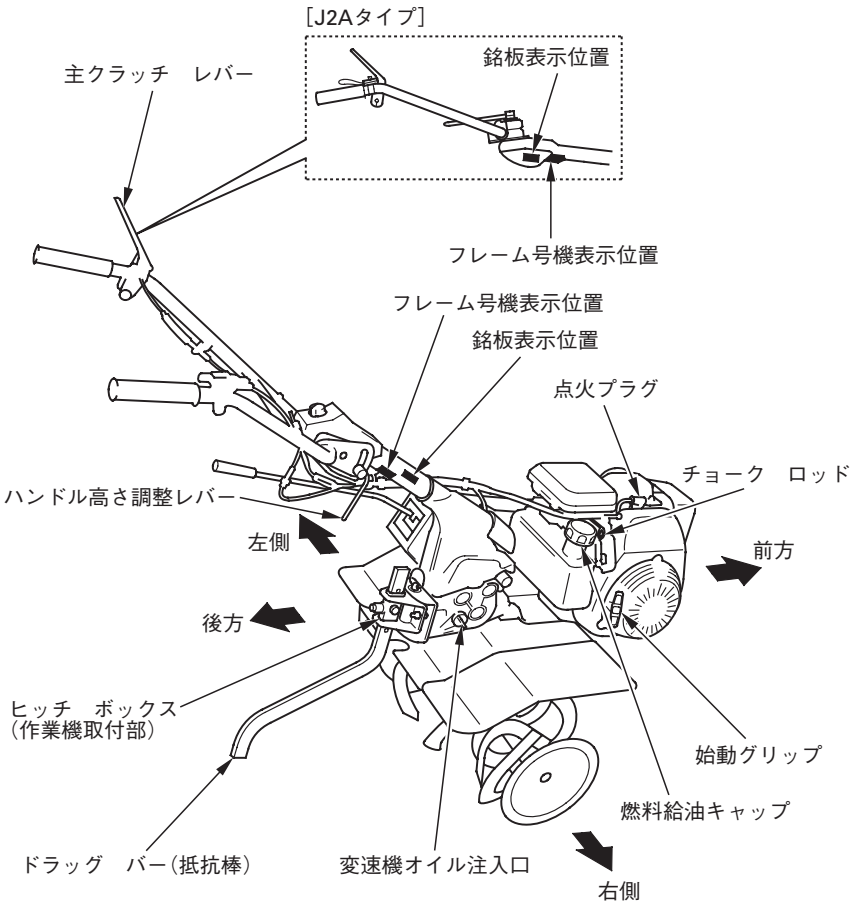
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

型式名	安全鑑定形式名	安全鑑定適合番号
FG400 FG400H	ホンダFG400	22102
FG500 FG500H	ホンダFG500	22103

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

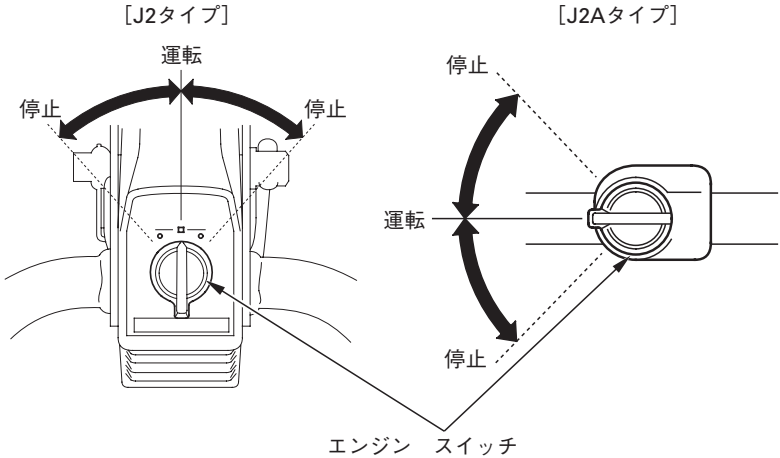


＊ロータはタイプにより設定されています


[J2Aタイプ]
銘板表示位置
主クラッチ　レバー
フレーム号機表示位置
フレーム号機表示位置
銘板表示位置
点火プラグ
チョーク　ロッド
ハンドル高さ調整レバー
左側
前方
後方
ヒッチ　ボックス
（作業機取付部）
始動グリップ
燃料給油キャップ
ドラッグ　バー（抵抗棒）
変速機オイル注入口
右側

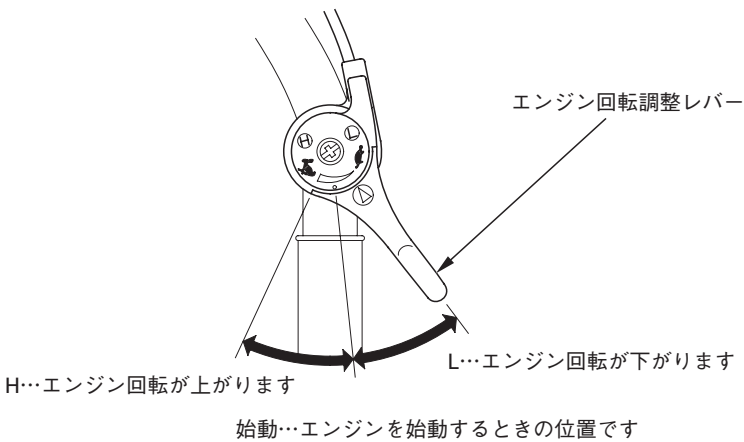
エンジン　スイッチ

エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



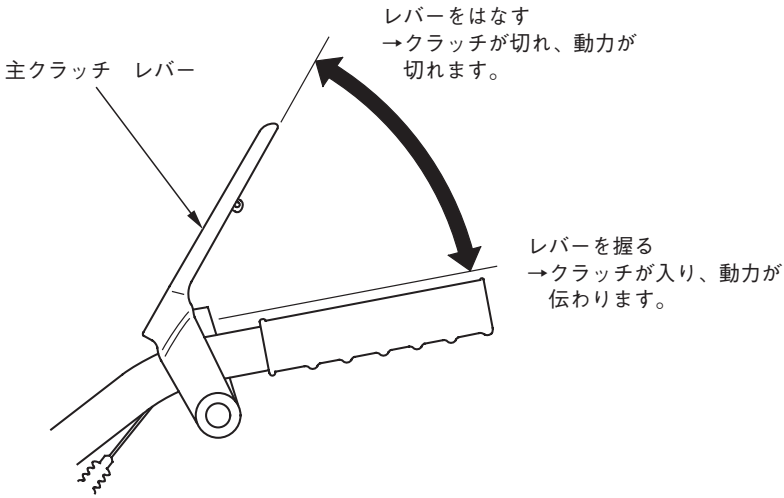
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



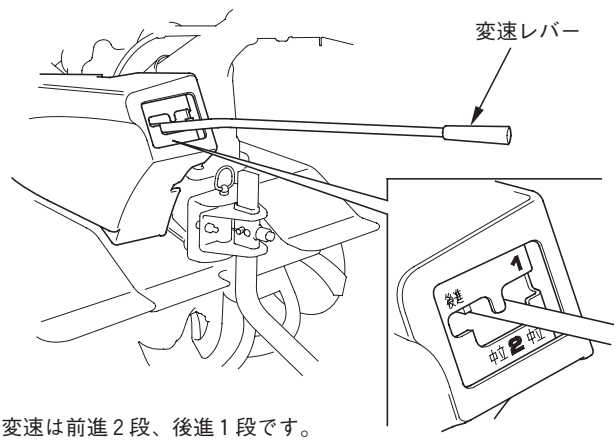
主クラッチ　レバー

主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。



変速レバー

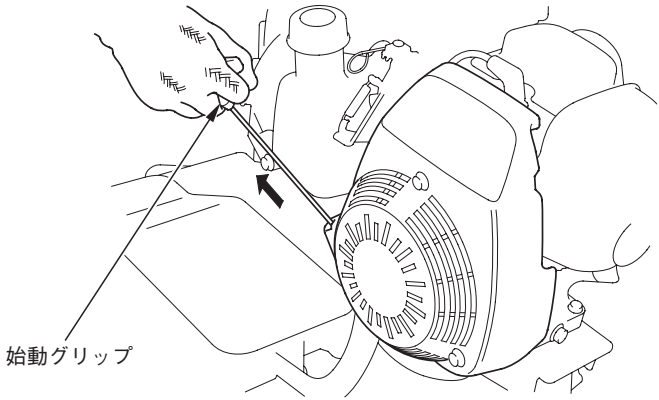
本機の速度を変えるときに操作します。



・・・ 変速は前進２段、後進１段です。

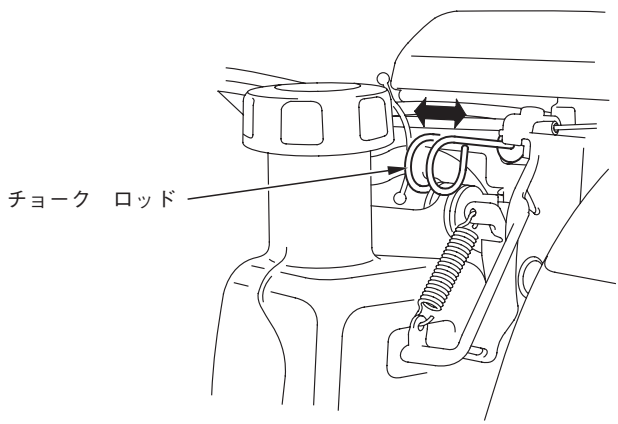
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。

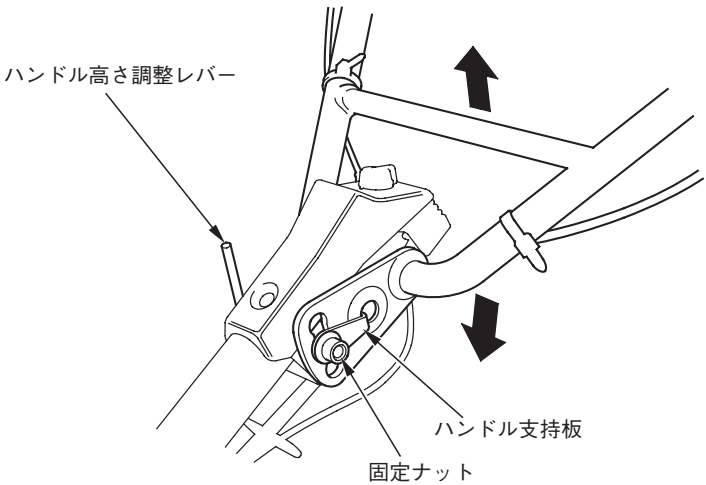


チョーク　ロッド

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。

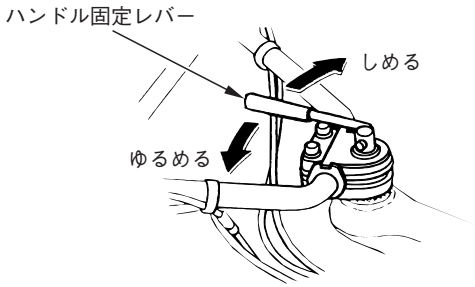


ハンドル高さ調整レバー
［J2タイプ］
ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。

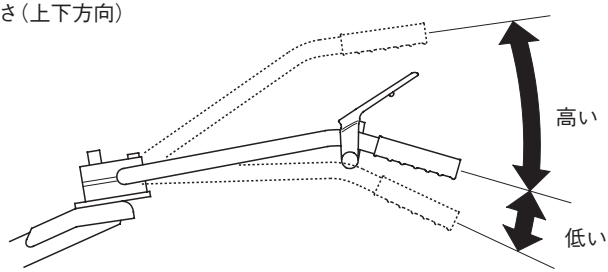


ハンドル固定レバー［J2Aタイプ］

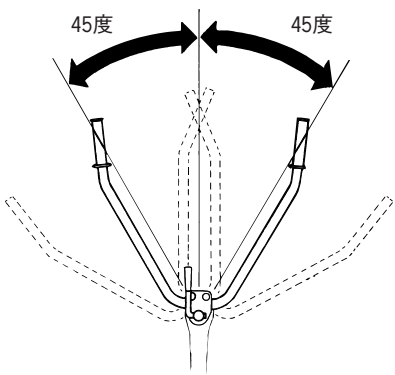
ハンドル高さと、ハンドル角度を作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。



ハンドル高さ（上下方向）

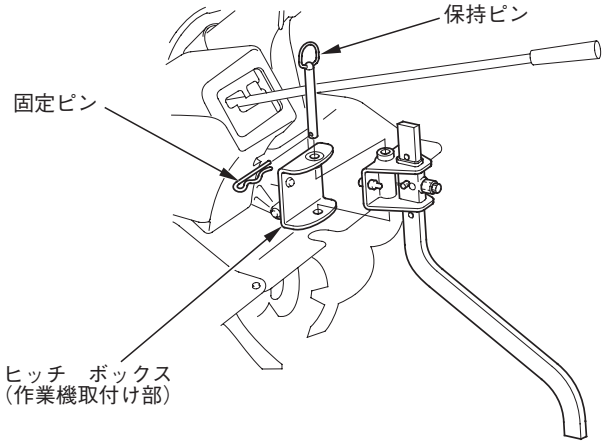


ハンドルの角度（左右方向）



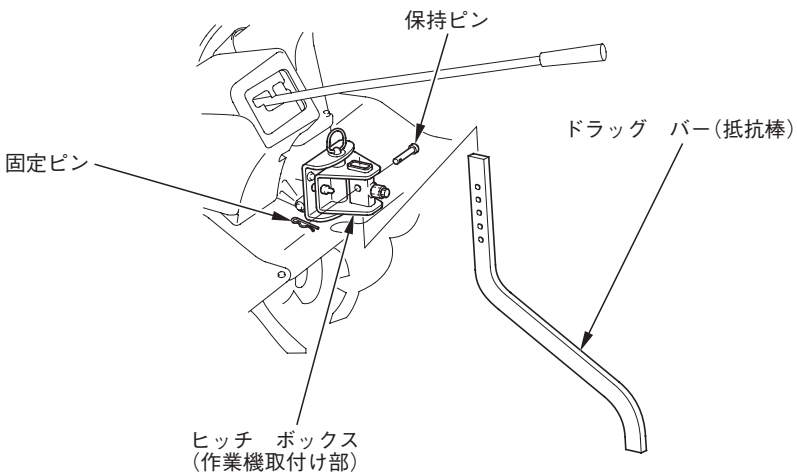
ヒッチ　ボックス(作業機取付け部)

作業機を取付けるところです。
取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ドラッグ　バー(抵抗棒)

耕うん深さを調節するとき、ドラッグ　バーを上下させて調節します。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……燃料の量(21、22頁参照)、オイルの量(23頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……レバーの遊び量(45、46頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は29～32頁参照)
  エンジン　スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は37、38頁参照)

- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

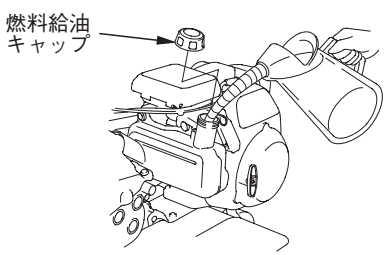
⚠警告

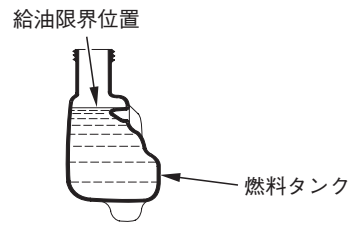
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし、燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。





補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラー　ガソリン

タンク容量：FG400/FG400H……　1.7ℓ

FG500/FG500H……　2.0ℓ

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

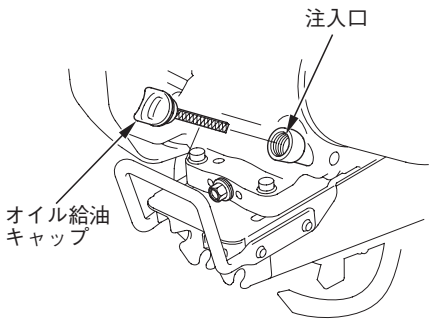
取扱いのポイント

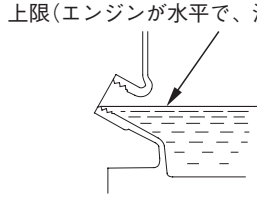
- 必ず無鉛レギュラー　ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

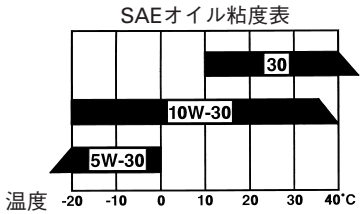
エンジン　オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。







補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は40、41頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。
  エンジン　オイル量：0.58ℓ

取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

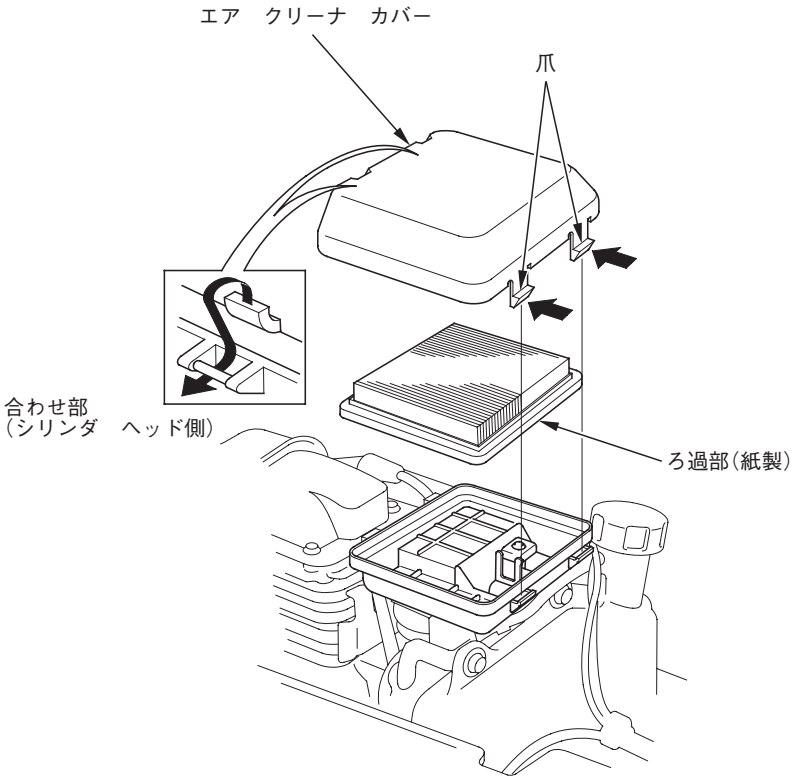
エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部(紙製)が汚れていないか点検します。

エア　クリーナ　カバーの取外しは、2つある爪を押して外した後、2つある合わせ部(シリンダ　ヘッド側)を離して行います。

汚れている場合は清掃してください。(清掃方法は42頁参照)

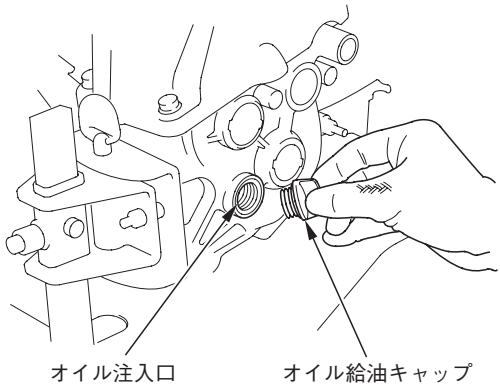
汚れているとエンジン性能が低下します。



変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

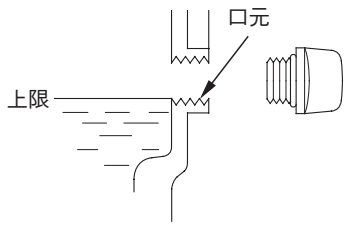


補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイル
をご使用ください。

変速機オイル量：0.95ℓ

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは確実に締付けてください。



取扱いのポイント

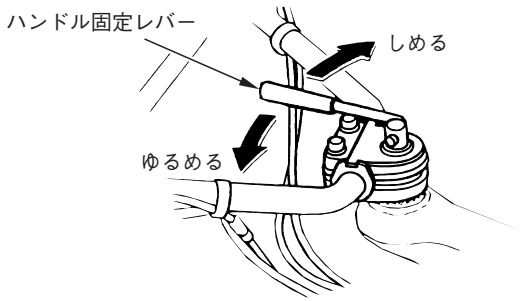
- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

ハンドル固定レバー［J2Aタイプ］

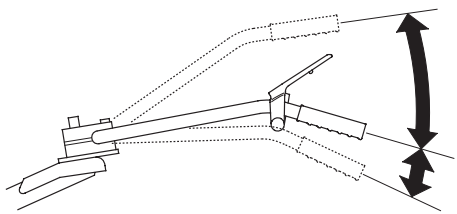
ハンドル高さ調整とハンドル角度調整は、ハンドル固定レバーを３～４回転させてゆるめることにより、任意の位置へ調整することができます。
調整後はハンドル固定レバーを確実に締付けてください。
作業内容、運転者の身長に合わせて使用ください。

⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。



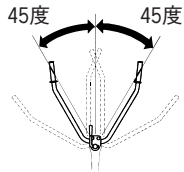
・ハンドル高さ調整：(上下方向)
ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の高さに調整してください。



取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

・ハンドルの角度調整：(左右方向)
作業内容によりハンドルの角度を調整する場合には、ハンドル固定レバーをゆるめ、図のように左右45°以内で調整することができます。



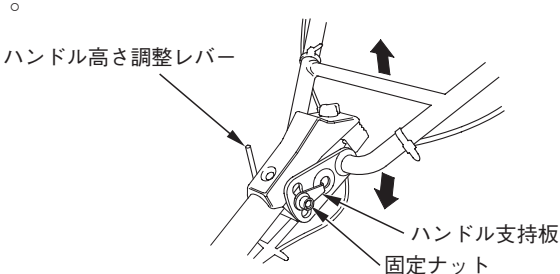
ハンドル高さ調整レバー
[J2タイプ]

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるときに使用します。

⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた
ハンドル高さ調整レバーを回しながらゆるめ、ハンドルを上下移動し、固定ナットを任意の穴へ移動しハンドル高さ調整レバーを確実に固定します。



取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ドラッグ　バー(抵抗棒)の調節

耕うん深さを調節するとき、ドラッグ　バーを上下させて調節します。

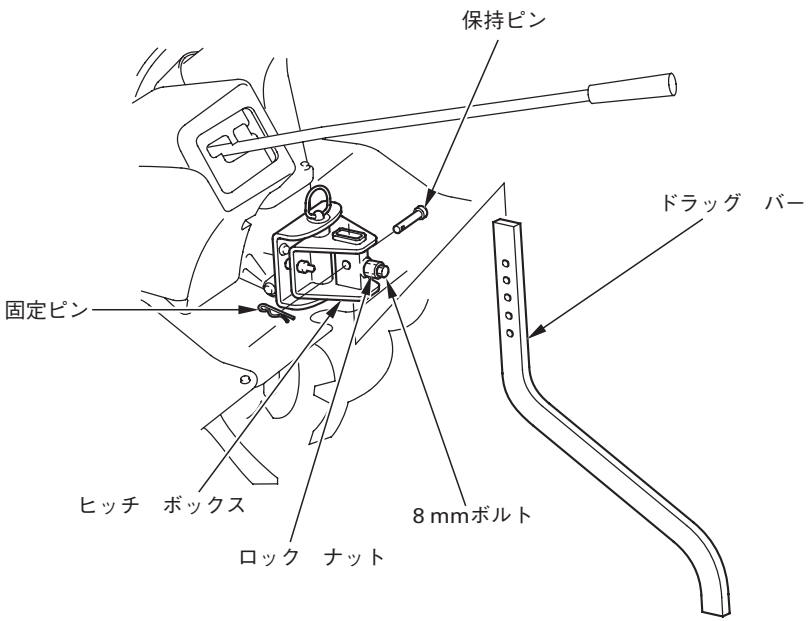
⚠注意

調節は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

調節

1. ロック　ナットをゆるめ、8 mmボルトをゆるめます。
2. 固定ピンを外して保持ピンを抜き、ドラッグ　バーを任意の穴位置に合わせ、保持ピンを差込み固定ピンで固定します。
3. 8 mmボルトを締付けロック ナットで固定します。

- 土が柔らかくて、ロータが潜ってしまうときには、ドラッグ　バーを引き上げてください。
- 土が硬いときには、ドラッグ　バーを押し下げて、耕深を浅くしてください。

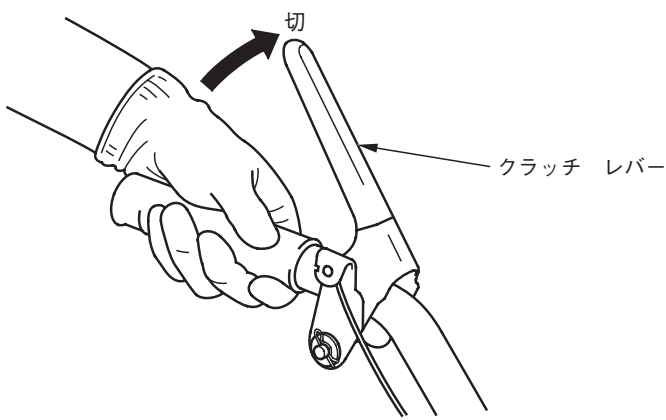


エンジンのかけかた

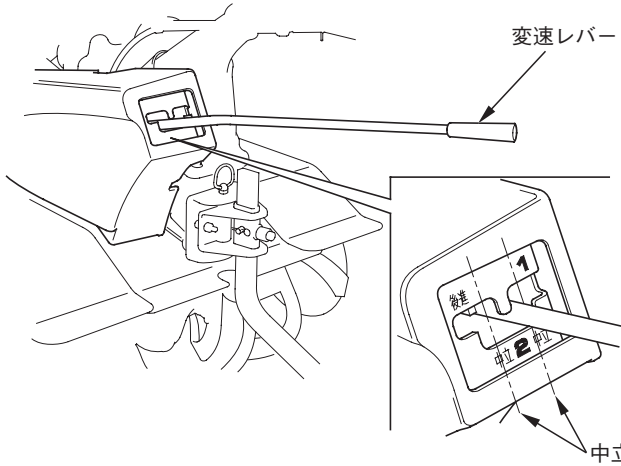
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチ　レバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

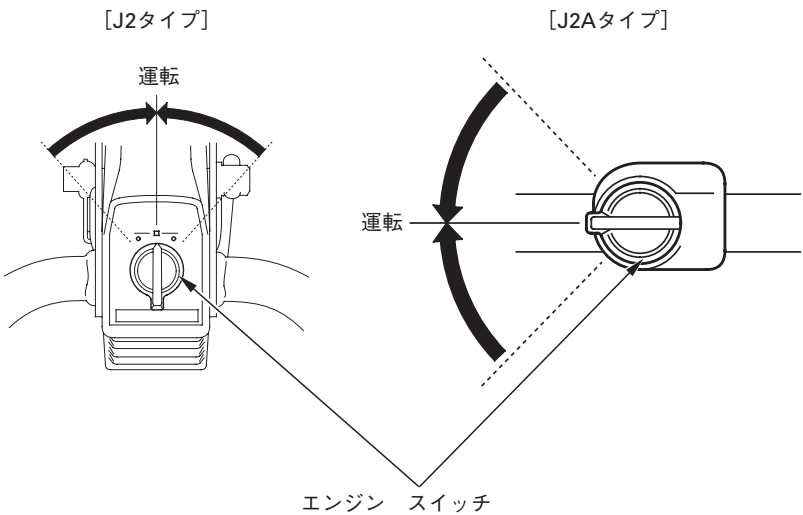
1. 主クラッチ　レバーが“切”になっていることを確認してください。



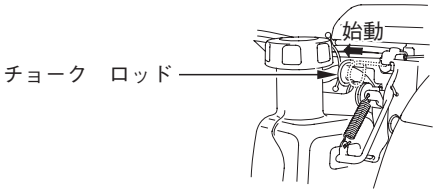
2. 変速レバーが**“中立”**になっていることを確認してください。



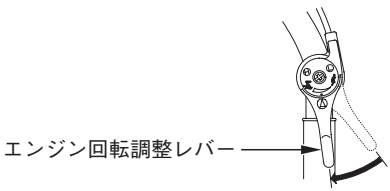
3. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。



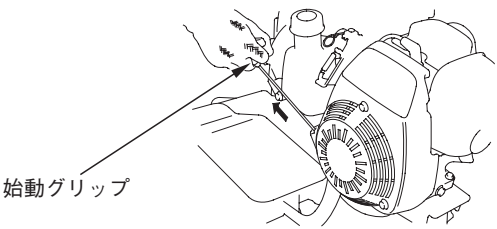
4. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク　ロッドを**“始動”**の方向に引きます。



5. エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。



6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



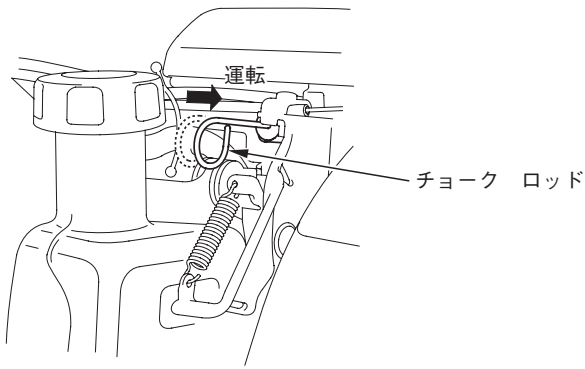
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

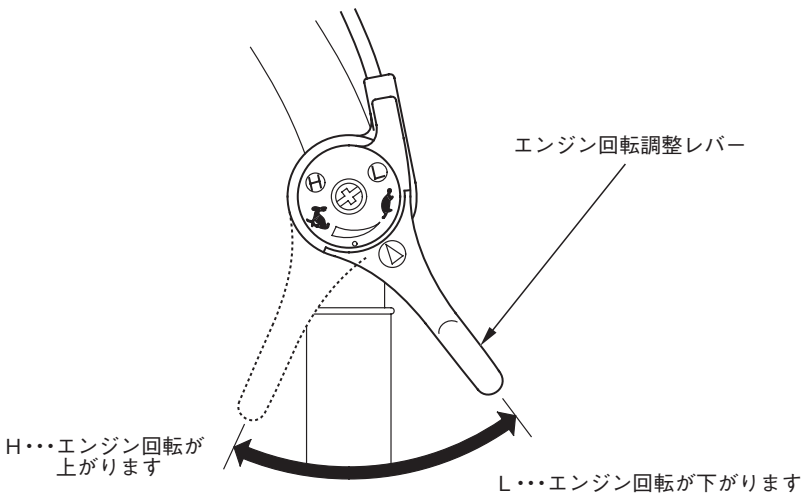
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり放してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. エンジンが始動します。
8. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。チョーク　ロッドを引いたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



9. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

・変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。(34頁参照)
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

変速の要領

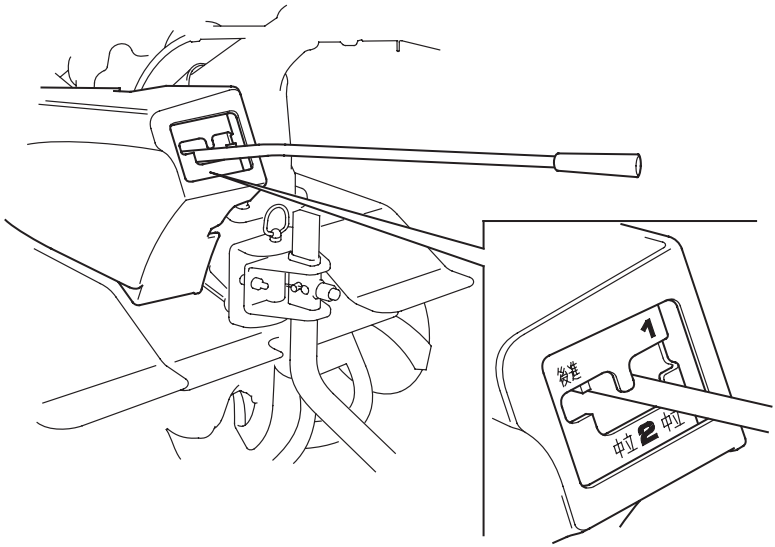
1) 変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。
2) 変速レバーが作動しにくいときにはいったん主クラッチをにぎった後主クラッチを切りもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

⚠警告

後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。

・変速表



変速表　　エンジン回転3,600rpm時

変速位置	車軸回転数
1	80 rpm
2	113 rpm
後進	38 rpm

運転

・主クラッチ　レバー

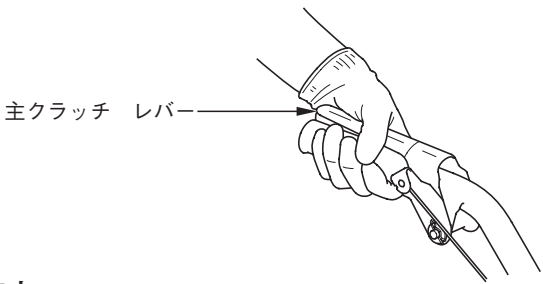
主クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

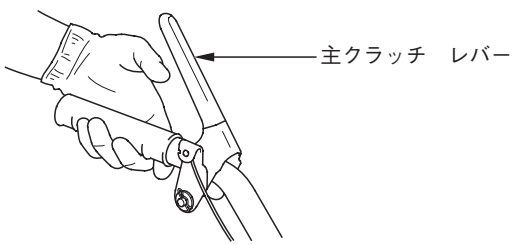
走行

主クラッチ　レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチ　レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

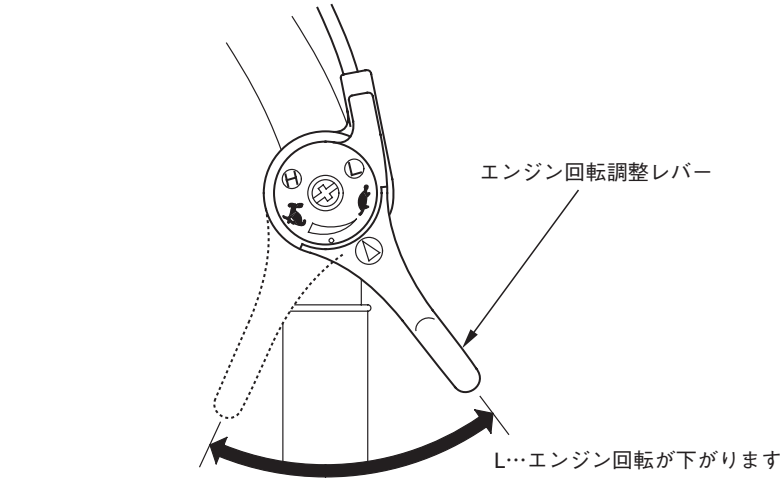


取扱いのポイント

主クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

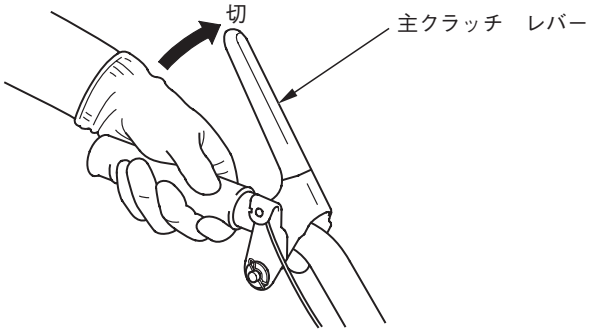
・エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。

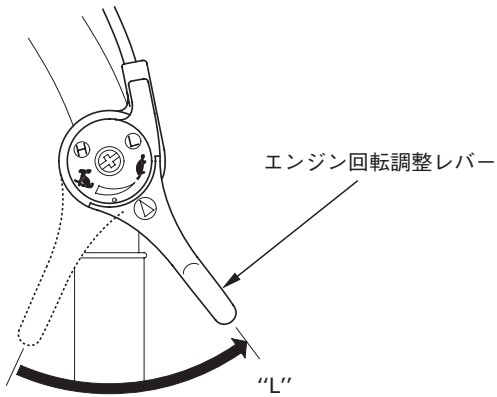


エンジンのとめかた

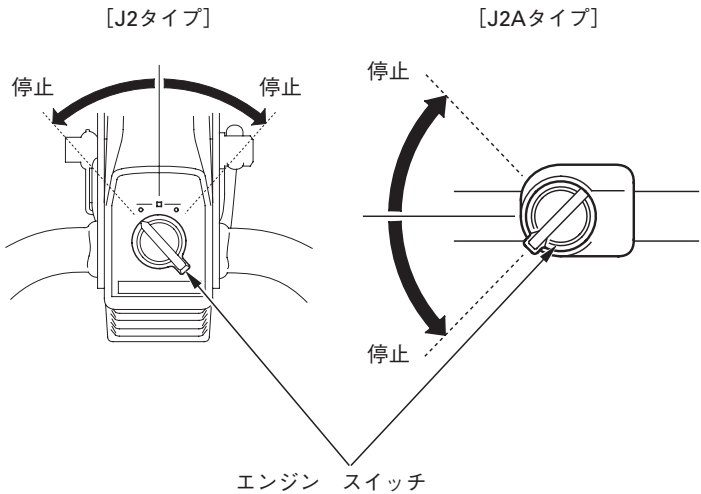
1. 主クラッチ　レバーを“切”にします。



2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



3. 変速レバーを**“中立”**の位置にします。(30頁参照)
4. エンジン　スイッチを**“停止”**に合わせます。



定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期（3）		作業前点検	初回5時間運転目	25時間運転毎	50時間運転毎	100時間運転毎	2年毎または250時間運転毎
エンジン　オイル*	点検	○					
	交換		○		○（2）		
エア　クリーナ	点検	○					
	清掃			○（1）			
	交換						○
本機の周り	点検	○					
レバーの作動	点検	○					
各部の締付け	点検	○					
配線、ケーブル類	点検	○					
エンジンの作動	点検	○					
トランスミッション　オイル**	点検	○					
駆動ベルト	調整			初回25時間目		○	
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
エンジン回転調整ケーブル	調整						○
主クラッチ　ケーブル	調整			初回25時間目		○	
アイドル　スピード	点検、調整					○（4）	
タペット　クリアランス	点検、調整					○（4）	
燃焼室	清掃	250時間運転毎（4）（5）					
燃料タンク及びフィルタ	清掃					○（4）	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)（4）					

＊稼働期前交換してください。
＊＊稼働期前点検し、汚れがひどい場合は交換してください。
（1）ホコリの多い所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（2）高負荷、高温時は25時間運転毎のエンジン　オイル交換を実施してください。
（3）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（4）販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
（5）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：5時間運転目、以後50時間運転毎
また、稼働期前には必ず交換してください。
・高負荷、高温時は、25時間運転毎に交換してください。

《推奨オイル》（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

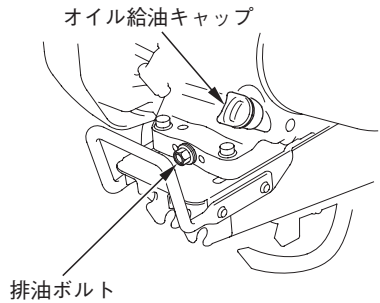
《エンジン　オイル量》 0.58ℓ

取扱いのポイント

- 低温時（気温10°C以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ　バレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検･交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足や、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

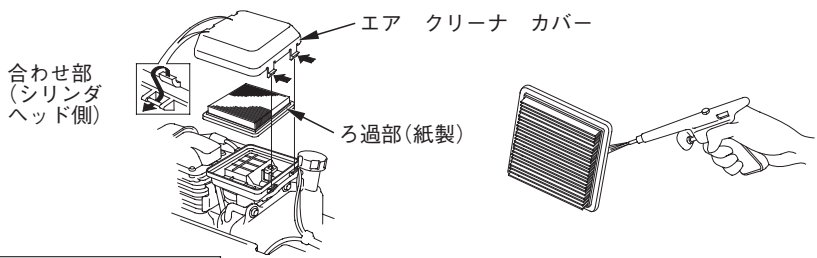
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》 25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は、10時間運転毎または１日１回行ってください。

《交換時期》 ２年毎または250時間運転毎

1. エア　クリーナ　カバーを取外し、ろ過部(紙製)を取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、２つある爪を押して外した後、２つある合わせ部(シリンダ　ヘッド側)を離して行います。
2. ろ過部の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。
3. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   エア　クリーナ　カバーの取付けは、２か所の合わせ部を組付け後、２か所の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

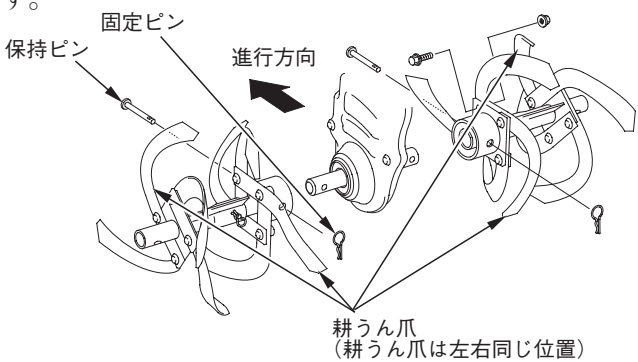
- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

耕うん爪(ロータ)の点検・交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、プラグキャップを外してから行ってください。
- 万一の落下にそなえて、耕うん爪軸の下に木の台などを置いてください。
- 耕うん爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

1) 耕うん爪の損傷、曲がりがないか点検してください。もし異常があったときは交換してください。
2) 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しいピンを補充、交換してください。
3) 耕うん爪を交換した場合は耕うん爪の先を左右同じ位置にして取付けます。



取扱いのポイント

耕うん爪はHonda純正部品を使用してください。

点火プラグの点検･調整･交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

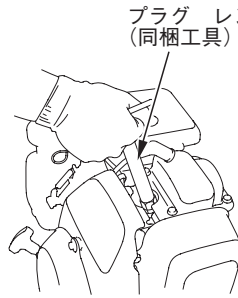
⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検･調整時期》100時間運転毎
《交換時期》 2年毎または250時間運転毎

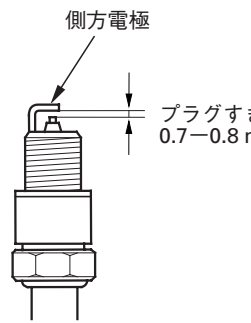
清掃のしかた

1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7－0.8 mm



《標準プラグ》
BPR6ES (NGK)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検･調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

エンジン回転調整ケーブルの調整

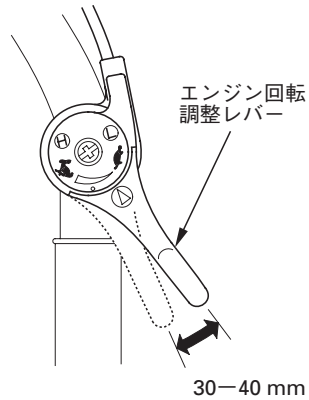
エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

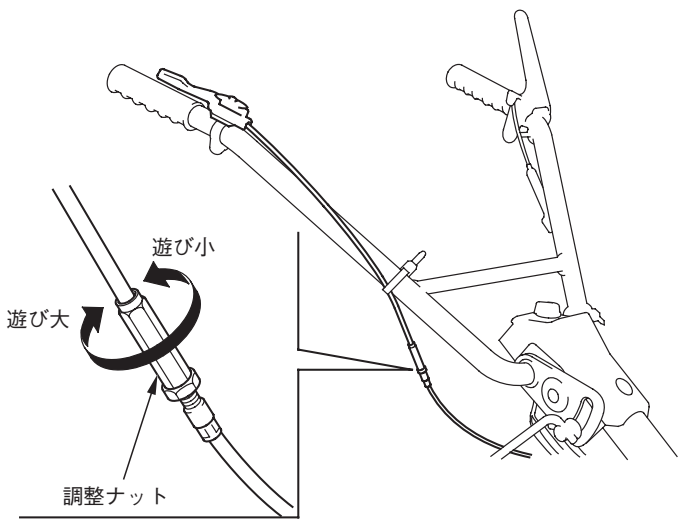
《調整時期》

２年毎または250時間運転毎

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“Ｌ”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：30－40 mm
2. 調整は、調整ナットを回して行ってください。





主クラッチ　ケーブルの調整

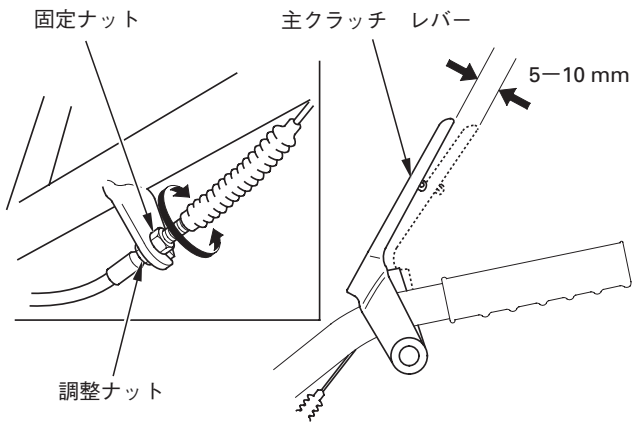
主クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

《調整時期》

初回：25時間運転目　以後：100時間運転毎

《調　整》

1. 主クラッチ　レバーを“切”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5－10 mm
   調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。



2. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチレバーを数回“入”“切”し、再度遊びを確認してください。

駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

⚠注意

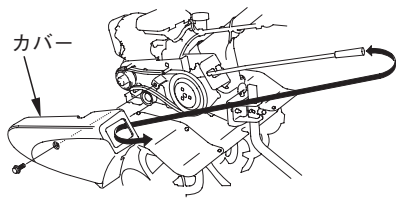
調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落して思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

《調整時期》

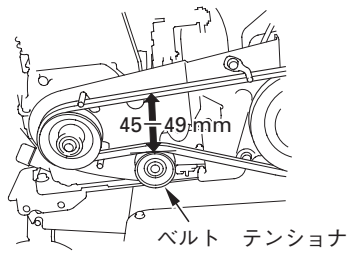
初回：25時間運転目、以後：100時間運転毎

《点検》

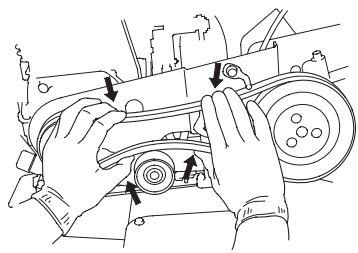
1. ベルト　カバーを取外します。



2. ベルトのすき間及びストッパーのすき間の調整はエンジンを**“停止”**させ点火プラグ　キャップを外し、主クラッチ　レバーを**“入”**にした状態で下図のように上下ベルトを両手で５～６回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。
   - ベルト間隔：45－49 mm
   - 指定ベルト：Ｖベルト(SB38)

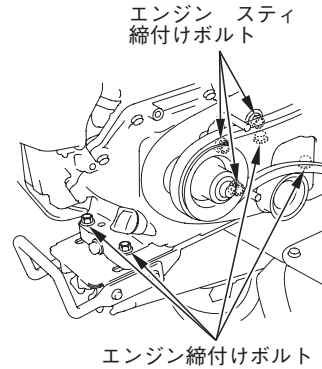


3. 規定寸法外の場合は調整してください。

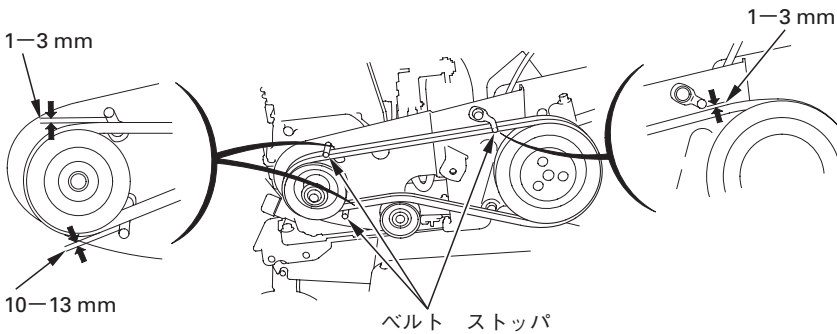


《調　整》

4. 主クラッチ　ケーブルを調整します。
（調整方法は46頁参照）
5. 調整はエンジン　スティ締付けボルト、エンジン締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
規定寸法よりせまい場合…エンジンを前に動かします。
規定寸法よりひろい場合…エンジンを後に動かします。
6. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。



7. 主クラッチ　レバーを握った状態、またはクラッチ固定レバー使用の状態（クラッチが“入”の状態）で、ベルトとベルト　ストッパのすき間（3か所）が図の寸法になるか点検します。



8. 規定寸法外の場合は調整してください。
9. 調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。
10. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
11. ベルト　カバーを取付けます。

⚠注意

ベルト　カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣類を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

使用後の手入れ

エンジン停止直後はエンジン、マフラ(消音器)などが高温になっています。点検、整備等は十分に冷えてから行ってください。

1. 本体やロータ部分についた土、わら、草やよごれなどを落としてください。
2. エア　クリーナについた土やほこりを落としてください。
3. 洗車する場合はエア　クリーナの空気取り入れ口や電装部品、エンジン周りに水が入らないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

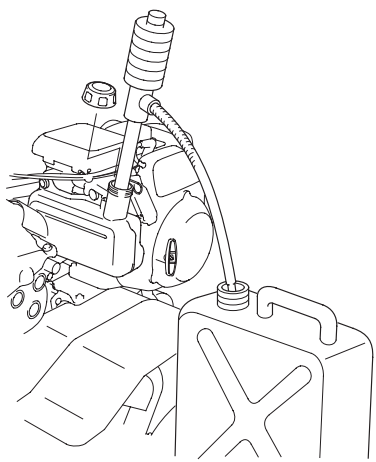
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

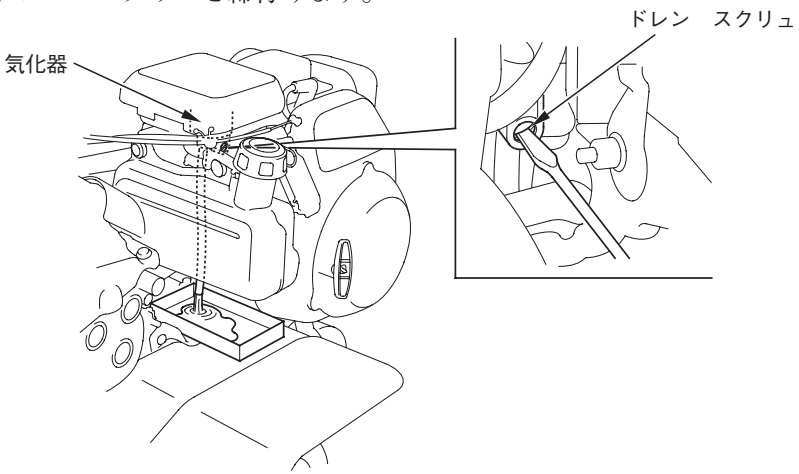
1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

《抜き方》

1) 燃料給油キャップを外し、燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。



2) ドレン　スクリュをゆるめ、気化器内のガソリンを抜きます。
3) ドレン　スクリュを締付けます。



2. エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は42頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ　レバーを“切”にします。

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（29～32頁参照）
2. ガソリンはありますか?（21、22頁参照）
3. エンジン　オイルは注入口、上限までありますか?（23頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（44頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう

- 駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか?（47、48頁参照）

主要諸元

名称		FG400H	FG400	
型式		ホンダFG400		
区分		J2	J2	J2A
機体寸法	全長	1,355 mm		1,385 mm
	全幅	655 mm		600 mm
	全高	1,070 mm		970 mm
	ハンドル幅	562 mm		
全装備重量		49 kg		44 kg
エンジン	型式	GCAJ		
	形式	空冷 4 サイクル縦軸ガソリン(OHC)		
	総排気量	135 cm^3		
	定格出力/回転速度	2.1 kW (2.8 PS)/3,600 rpm (最大2.9 kW (4.0 PS)/3,600 rpm)		
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラー　ガソリン		
	燃料タンク容量	1.7 ℓ		
	エンジン オイル容量	0.58 ℓ		
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火		
	始動方式	リコイル　スタータ		
クラッチ方式		ベルトテンション		
変速段数	前進	2 段		
	後進	1 段		
安全鑑定適合番号		22102		

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

名称		FG500H	FG500	
型式		ホンダFG500		
区分		J2	J2	J2A
機体寸法	全長	1,355 mm		1,385 mm
	全幅	655 mm		600 mm
	全高	1,070 mm		970 mm
	ハンドル幅	562 mm		
全装備重量		50 kg		45 kg
エンジン	型式	GCAH		
	形式	空冷 4 サイクル縦軸ガソリン(OHC)		
	総排気量	160 cm^3		
	定格出力/回転速度	2.8 kW (3.8 PS)/3,600 rpm (最大3.7 kW (5.0 PS)/3,600 rpm)		
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラー　ガソリン		
	燃料タンク容量	2.0 ℓ		
	エンジン オイル容量	0.58 ℓ		
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火		
	始動方式	リコイル　スタータ		
クラッチ方式		ベルトテンション		
変速段数	前進	2 段		
	後進	1 段		
安全鑑定適合番号		22103		

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30V08602
00X30-V08-6021

ⓒ 2015 本田技研工業株式会社